

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：地域づくりと暮らし	
日付：11月 23日（月）曜日、セッション時間： 9：00～10：30	
司会者名（所属）：嶋本 寛（広島大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：</p> <p>本セッションでは3件の発表を個別に行ったが、残り時間の全体討議を行った。主に以下の点に関する議論が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市と農村居住者が必要としているものが大きく異なるが、交流を促進する上でどのような方策があるのか ・ アンケート票の構成によるに回答の感度に関する検討を行う必要性
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(235) 中井周作（京都大学）</p> <p>本発表は、ヘドニック心理学に基づいて買い物満足度と生活満足度の関係性を共分散構造分析により実証的に分析したものである。モデルで因子間の相関関係が十分に考慮できていないのかなどモデルに関する指摘が行われた後、得られた生活満足度をどのように政策立案に活かしていくのかに関する討議が行われた。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(236) 宮田将門（名古屋大学）</p> <p>本発表は、地域が有するストックに着目してインフロー・アウトフローを表現することにより中山間地域の持続可能性を検討するものである。財務分析との違いは何かという確認が行われた後、分析手法を用いて集落の“仕分け”を行うのか否かなどの本発表の適用場面に関する議論が行われ、さらに金銭や人的資本について誰が負担するのかを考慮する必要性が指摘された。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(237) 黒川貴啓（岐阜大学）</p> <p>本発表は、中山間地域における農村と都市の住民の交流のあり方をゲーム理論により分析したものである。分析結果は利得表に大きく左右されるが、利得表は現実に即しているのかに関する確認があり、今後の展開として利得表の推定の高度化も考えられるが、まずは定性的にモデルの枠組みを見る必要性も指摘された。さらに、リピーターや周りの口コミなどの要素を考慮すること必要性に関する指摘もあった。</p>